



特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク 2023年度 事業報告

Think globally, act locally and change personally!



本部事務所(四国 EPO 愛媛デスク)

〒790-0803 愛媛県松山市東雲町 5-6

TEL : 089-993-6271

FAX : 089-993-6227

E-mail : sakusaku@sgn.or.jp

【SGN】 <https://www.sgn.or.jp/>

【武器アート】 <http://mozambique-art.com/>

【四国 EPO】 <https://4epo.jp/>

【四国 ESD センター】 <https://shikoku.esdcenter.jp/>

【LS 四国】 <https://ls459.net/>

四国 EPO 本部・四国 ESD センター

香川県高松市寿町 2 丁目 1-1 高松第一生命ビル新館 3F

TEL : 087-816-2232

四国 EPO 徳島デスク

徳島市西新浜町 2 丁目 3-102 エコみらいとくしま内

TEL : 080-4035-4593

四国 EPO 高知デスク

高知市旭町 3 丁目 115 こうち男女共同参画センター3F

環境の杜こうち内

TEL : 080-4998-4592

目次

総括・挨拶	1
I. 国際協力事業	
1. モザンビークにおける国際支援活動	3
2. モザンビークに関する国内交流活動	4
3. フェアトレード普及啓発	5
II. 環境保全事業	
1. 環境省・四国環境パートナーシップオフィス企画運営等事業	6
2. 環境再生保全機構・地球環境基金助成金説明会の開催	12
3. 環境再生保全機構・ステークホルダーミーティングの開催	12
III. 教育・ネットワーク事業	
1. 四国地方 ESD 活動支援センター事業	13
2. 外務省 NGO 相談員業務	16
3. JICANGO 提案型事業・多文化共生型の減災社会づくり実践研修	17
4. 愛媛県・えひめ森林公園 ESD プログラム実施業務	19
5. 東雲 ESD コミュニティファーム活動報告	20
6. 講師派遣および持続可能な開発のための教育（ESD）普及啓発	21
7. 協働オフィス運営と中間支援機連携	23
IV. 管理運営等	
1. 組織運営	24
2. 決算報告	25
3. 監査報告	34
4. 広報活動	35

2023年度 総括

はじめに、能登半島地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。そして、会員の皆様、寄付者・関係者の皆様には、日頃より当団体の活動へのご理解・ご協力を賜りありがとうございます。心より感謝申し上げます。

次に、改称のご挨拶を申し上げます。「えひめグローバルネットワーク」は、25周年を迎えた昨年度の総会で改称を決議し、2024年4月1日に「四国グローバルネットワーク」へと改称致しました。これまで通り、国際・環境・教育の3分野を横断したネットワークづくりやパートナーシップを構築しつつも、今後は、これまで以上に「中間支援機能の強化」に注力しながら、市民主体の持続可能な社会づくりに向けて取り組んでいきたいと考えています。これまでずっと「わくわく」の愛称で親しんで頂きましたが、今後は、それに加えて、さまざまな社会課題の解決・改善に向けて、次世代への可能性の芽を育み、花が咲く「さくさく」のイメージをもって取り組みます。皆様、今後とも引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

ここから事業総括となりますが、モザンビーク支援事業では、シニャングアニーネ村公民館の管理や保全と活用、農業活動支援、フェアトレード商品づくり、小学校および教員宿舎の修繕などを実施し、地域コミュニティによる「自立的運営」のサポートを継続して実施しました。また、愛媛県内中学生が参加する「ESD/SDGs ツアー」を実施し、帰国後は各種報告会を開催し、モザンビークに触れる機会を市民に提供しました。中学生主体の「Bridge of friendship (Bof)」、フェアトレードに取り組んだ「モザンビーク SDGs 勉強会 (Moss)」、市内2つの高校にある「モザンビーク班」、県内外の大学等と武器アート展示で連携するなど、たくさんの若者人材育成に尽力しました。さらに、外務省や大使館と連携し、両国特命全権大使やマカモ外務大臣との面談(東京)、テネ編集長(モザンビーク新聞社)の来県アレンジなど、2024年度も幅広い層の相互交流による国際理解・交流を実施して市民層の裾野を広げ、国際協力活動への関心を高める活動を行いました。

外務省 NGO 相談員事業、環境省四国環境パートナーシップオフィス企画運営事業、地球環境基金関連事業、NGO 提案型 JICA 多文化共生型減災社会づくり事業、愛媛県えひめ森林公園 ESD プログラム実証事業など、行政・関連機関からの受託事業の実施については、四国各県に配置している全スタッフとともに、これまでの経験と工夫を重ねつつ、それぞれの企画内容・目標設定に応じて展開し、目標を達成することができたと考えています。(詳細は、ぜひ各報告ページをご参照ください) 国・県・市町村など各レベルの行政、教育委員会、関連機関等との連携による事業実施は、当団体の持つ「中間支援機能」の強みを活かした取り組みであり、特に「ローカル SDGs 四国 (LS 四国)」という環境省四国事務所とともに事務局運営を担っている四国のプラットフォームにおいて、「つながり」の可視化促進に貢献するものと考えています。環境省が提唱する『地域循環共生圏』づくりの構想や脱炭素・生物多様性保全の取り組みは、国内外を問わず普及啓発を拡充すべく、今後多様な主体との連携を促進しながら、継続して展開していく所存です。

そして、これら当団体の活動の礎となる ESD については、2003年6月の地域ミーティング以来20年という節目・歳月を経て、さまざまな地域の ESD の取組へと広がっていることを実感しています。全国の ESD 活動推進センターや ESD 活動推進拠点、ESD-J(持続可能な開発のための教育推進会議)等との多様な連携、そして「ESD バーチャル大学」「ESD カレンダー」「四国 ESD フォーラム」など、四国ならではの ESD 実践を全国発信することができました。

2023年度も、会員・寄付者・関係者の皆様のご協力、理事・スタッフ・ボランティアの皆様からの日々の支えがあって諸活動を展開することができました。皆様に心より深く感謝申し上げます。ありがとうございます！！

特定非営利活動法人四国グローバルネットワーク
代表理事 竹内よし子 & 共同代表 常川真由美



【ビジョン】

あらゆる人々が、人として平和な日々をおくることができる
持続可能な社会を実現すること

【ミッション】

1. 人として対等な立場で支援を必要とする人々の社会的・経済的自立を
援助するため市民参加による国際協力活動を実践すること。
2. 国際協力活動を促進し、多文化共生社会を実現するため
地球市民教育の普及に取り組むこと。
3. わたしたちのビジョンを追求するため地域・国内・海外の市民や
諸団体とのネットワークを構築すること。

I-1. モザンビークにおける国際支援活動

今年度のモザンビーク支援事業では、シニャングァニーネ村公民館の管理や保全と活用、農業活動支援、フェアトレード商品づくり、小学校および教員宿舍の修繕などとともに、ポンプの修繕と公民館へのソーラーパネルを設置するなど、地域コミュニティによる「自立的運営」のサポートを継続して実施した。また、8月には愛媛県内中高生が参加する「ESD/SDGs ツアー」を実施し、若者と共に現地のESD/SDGsについて考え、実践につなげる活動を展開した。



シニャングァニーネ村での農業研修



東京パラリンピック選手イラーリオ氏学校訪問



シニャングァニーネ村・ボンドイア村訪問



ボンドイア村
小学校・寄宿舎
修繕



モザンビークノート、ユニフォーム、種等の寄贈

フェアトレード商品づくり

I-2. モザンビークに関わる国内交流活動

「モザンビークとのオンライン交流」

4月にシニャングアニーネ村ESD公民館およびボンディア村小学校にPC各1台を寄贈した後、以下の通り、計7回、延べ参加人数154名でオンライン交流を実施した。



実施日	参加者	内 容
2023年 9月21日	●愛媛：7名 (竹内、棚田、門田、ロソ、藤田、藤野、栗原) ●シニャングアニーネ村：14名 (コエルソンド、クリスルダ、ペドロ、ジヨリオ先生、生徒4名) ●ボンディア小学校：5名 (リディア先生、ベルニロ先生、生徒3名) 【計38名】	●英語で自己紹介 ●PCおよびZoomの使い方説明 ●文章作成説明
10月19日	●愛媛：5名 (竹内、藤野、藤田、栗原、安永) ●ボンディア小学校：6名 (エウゴ校長、リディア先生、ベルニロ先生、生徒3名) 【計11名】	●英語で将来の夢を語り合った。
11月22日	●愛媛：2名 (竹内、門田) ●シニャングアニーネ村：1名 (フェルナンド) 【計3名】	●Zoomの使い方チェック ●エコブリックの歌をチェット ●学校の予定確認(11月30日に学校が終わる。12月、1月は休み。)
12月1日	●愛媛：4名 (竹内、藤野、藤田、栗原) ●シニャングアニーネ村：8名 (コエルソンド、エレナ、ペドロ、クリスルダ、生徒4名) ●ボンディア小学校：4名 (エウゴ校長、リディア先生、ベルニロ先生、シウラ先生4名) 【計16名】	●クリスマステーマに意見交換した。 ①村では餅ついたり、食事会をする。 ②シングルベルの歌は知っている。 ●ボンディア小学校では、エコブリック椅子2脚を作成・完成させた。
2024年 1月18日	●愛媛：4名 (竹内、門田、藤田、安永) ●シニャングアニーネ村：11名 (フェルナンド生徒10名) 【計15名】	●Zoom設定確認 ●ボンディア小学校は休み ●エコブリックづくり進捗状況確認
2月15日	●愛媛：4名 (竹内、門田、栗原、藤田) ●ボンディア小学校：22名 (リディア先生、ベルニロ先生、生徒20名) 【計26名】	●アディシヤス新聞社編集長のテネさんが来訪し、新玉小学校訪問したことを共有。 ●新聞紙SDGsアートフェスティバルにシニャングアニーネ小学校、ボンディア小学校、ペンライイカ、プゾア小学校児童の絵を展示したことを共有。新聞紙市HPから紹介。 ●伊予市立都中小学校児童がボンディア小学校に贈ったファイルを共有。 ●母親として顔を洗いきれいにして出かける歌を紹介。 ●幸せなら手をとったこの歌を練習
3月21日	●愛媛：4名、東京：1名 (竹内、門田、栗原、山本純、横田) ●シニャングアニーネ村：20名 (コエルソンド、クリスルダ、生徒18名) 【計25名】	●Zoom設定が難しく、What's upも併用した。 ●横田さん紹介 ●幸せなら手をとったこの歌が上達し、披露。

第9回モザンビークデー開催、モザンビークのマカモ外務協力大臣との面談、ノティシヤス新聞社のアナ編集長との交流

2023年10月1日、日本・モザンビーク市民友好協会との共催による「第9回モザンビークデー」を開催し、オンライン参加者を含む20名が参加・交流した。前半は、「モザンビークSDGs勉強会(Moss)」によるフェアトレード商品開発・作品発表、後半は「トビタテ×飛び入り留学 JAPAN」でモザンビークに渡航した中高生による報告と「Bridge of friendship(Bof)」の活動発表があり、その後、質疑応答や意見交換が行われた。モザンビークの街の様子や現地を感じたことなどが紹介され、参加者は中高生がアフリカ訪問した意義など、興味深く聞き入っている様子が窺えた。

また、2023年11月28日、モザンビークのマカモ外務協力大臣が来日され、木村元・在モザンビーク日本大使館特命全権大使とジョゼ・モライス駐日モザンビーク大使館特命全権大使との面談を行ったほか、2024年1月25～27日、外務省が招へいたモザンビークの全国紙ノティシヤスのアナ・テネ編集長の愛媛訪問アレンジを行う、愛媛・EGNとモザンビークの友好・交流の取組やつながり・歴史を紹介した。滞在期間中、新玉小学校、愛媛大学附属高校、松山北高校など具体的にモザンビークとのつながりがある学校訪問やアナ氏との交流会を開催し、友好交流を深めた。



オンラインの様子



マカモ大臣との記念撮影



アナ編集長との交流会

武器アート展示

2023年11月11～12日に人間環境大学総合心理学部「心心祭」の学生企画で、武器アトリエの展示&ワークショップが開催され、展示等の協力を行った。武器アート葉書を作成してメッセージを発信するなど、平和な社会づくりに向けた積極的な取組となった。

また、毎年7月に松山市総合コミュニティセンターで開催される松山市平和資料展において、21～27日の期間、武器アートや関連資料を展示した。



松山市平和資料展での展示



人間環境大学での武器アート展示

Bridge of friendship(Bof)活動支援

Bofは、「モザンビークを豊かにすること」を目的とし、2022年3月に新玉小学校の卒業生7人で発足したNGOで、今年度、新規メンバーを迎え13名で活動を実施した。EGNは、外務省NGO相談員として助成金獲得に向けた助言や情報提供などを行いつつ、ユース中心の主体的な活動の継続・展開に向けて側面支援を行った。

愛媛大学附属高校や松山北高校のモザンビーク班との交流も含め、相互理解、ネットワーク構築ができるようサポートし、国際協力活動への関心を高めつつユース世代の人材育成に努めた。



Bofメンバーがカプラナ布で作ったゾウのマスコット

I-3. フェアトレード普及啓発

一村一品（成田空港）での常設販売を行ったほか、愛媛県内の高校の文化祭でフェアトレードの普及啓発、商品販売を行った。

また、11月25日（土）コムズで「Let's talk about FAIR TRADE ～若者と考えるフェアトレード～」をEGN市民活動25周年記念×NGOコラボ企画とし、シャプラニールと協働で開催し、フェアトレードの理科促進、普及啓発に取り組んだ。フェアトレードやフェアトレードタウン等についての情報を得た後、15名の参加者による活発な意見交換が行われた。

その他、大学や市民向け消費者教育の講演で、フェアトレードやフェアトレードタウンの取り組みを紹介し、消費行動の見直しにより、公正な社会づくりへの参画が可能であることを伝え、それぞれが自分ごととして考えるきっかけや機会を提供した。



II-1. 環境省・四国環境パートナーシップオフィス企画運営等事業

本事業は、環境省が設置した四国環境パートナーシップオフィス（四国 EPO）の受託事業である。持続可能な社会を構築する上で、さまざまな主体による環境保全活動や環境教育、協働取組の重要性を軸に、下記の事業を実施した。

(1) 基本業務

ア Web サイト等を活用した情報発信、PR

四国 EPO のホームページやメールマガジン、SNS（Facebook, Instagram, Twitter を活用し、四国内外のイベントや主催行事の開催内容を発信した。またスタッフがおすすめしたい事例や取組を四国のおすすめとして取材、多言語に翻訳し、HP で発信した。



季刊誌「しこくえぼ」(年4回発行)



Instagram・Facebookでの発信



月平均70件弱のイベントや助成金などの情報、月イチおすすめ本などを掲載！
「四国のおすすめ」（特徴のある活動紹介記事）は、英語、中国語でも発信中！

イ 相談対応、対話の場づくり Web サイト等を活用した情報発信、PR

審議会や協議会等の委員協力、企業からの研修依頼、大学等での講義など、さまざまな主体に協働やSDGについて発信する機会となった。



大学での講義や企業へのワークショップ
(徳島県)(香川県)(愛媛県)

第9回かがわ環境活動団体交流会
(香川県高松市)

(2) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

ア 地域プラットフォームの環境整備支援等業務

2023年度支援先団体として、((一社)全国わくわく課協会(活動地域:香川県東かがわ市)、(特非)大月地域資源活用協議会(活動地域:高知県大月町)が採択され、伴走支援を行った。

(一社)全国わくわく課協会

活動テーマ:「カブトムシを中心とした地域の循環設計」

カブトムシを中心に、地域の拠点づくり、原木しいたけなどの就農者増、交流人口・関係人口の増加を目指し、産業廃棄物(有機物)の有効活用にもつなげる展開を描き、2023年7月、拠点となる予定の古民家で初イベント「カブトムシをさわってみよう!」を成功させた。循環型農業の実現に向けて、地元企業や団体、農家さんなどと一緒に活動を進めている。



毎月開催PF事業((一社)全国わくわく課)定例会
(オンライン)



ステークホルダーミーティング
(香川県東かがわ市)

NPO 法人大月地域資源活用協議会

活動テーマ:「大月の山から繋がる地域循環共生圏

複数のぼちぼち山業で豊かな生活スタイルをつくる」

山での取組を活性化することにより、海の環境保全を目指した活動を行っている。1年目は、資源を活かし、守りながら活動してきた個人をつないで、山に興味を持つ人を増やすことに重点を置いた。2年目は、情報発信、山主へのアプローチ、広葉樹の消費を増やす仕組みづくり、移住者の巻き込み、防災機能の維持・強化なども視野に入れている。黒炭生産、お茶づくりなども進めた。



毎月開催PF事業(大月町)定例会
(オンライン)



ステークホルダーミーティング
(高知県大月町)

事業化支援団体「かみかつ茅葺き学校」(徳島県上勝町)に対しては進捗状況の把握を行った。

イ 地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会の開催

地域循環共生圏づくりには、森・里・川・海のつながりがもたらす豊かな自然資源、地域のステークホルダーをつなぐことが重要である。そこで身近な自然を活用した地域づくりに関する意見交換会を開催し、パートナーシップを促進することを目的に2つのイベントを開催した。

■物部川流域生態系保全から考える持続可能な地域づくりへのアプローチ～新たな仕組み

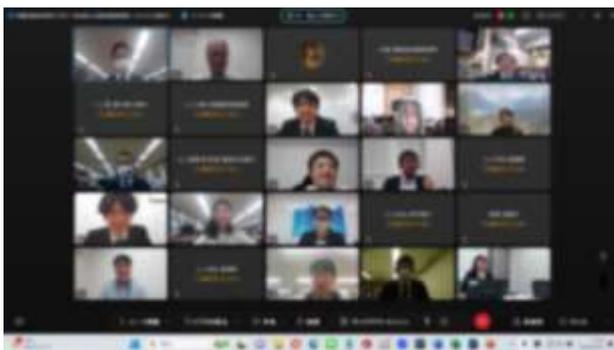
「自然共生サイト」をどう活かす？（高知県香南市+オンライン）

団体による奥物部におけるシカ害からの森林再生の取組報告、環境省からの自然共生サイトの仕組みと可能性、実際に申請を手がけた実感等についての情報提供があった。後半は、申請要件と生物多様性の評価等が話題となり、活発な意見交換が行われた。申請にあたってのアドバイスもあり、自然共生サイトについて理解が進んだという感想を多数得た。



■四国の森林活用ダイアログ～自治体による森林経営管理、J-クレジットの発行～

森林をとりまく現状や課題、持続可能な森林管理の手段の1つであるJ-クレジット登録の流れや活用事例、カーボンクレジット市場の動向、企業の取組など、森林管理に関する情報を一元的に得るとともに今後の展開を考える機会となった。



四国森林管理局、四国経済産業局、四国財務局との
共催で実施

(3) 地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業

2021年2月17日に設立したローカルSDGs 四国（LS 四国）（事務局：中国四国地方環境事務所・四国EPO）の運営を行った。今年度は分科会や協力機関と連携したイベントを開催した。

ア LS 四国の企画・運営委員会及び総会

LS 四国規約に基づき、会を運営し、企画及び運営に必要な事項について役員の承諾を得て進めた。



「企画・運営委員会」開催（香川県高松市・オンライン）



「LS 四国令和5年度総会」開催（愛媛県松山市・オンライン）

イ 情報交換会、ワークショップ等

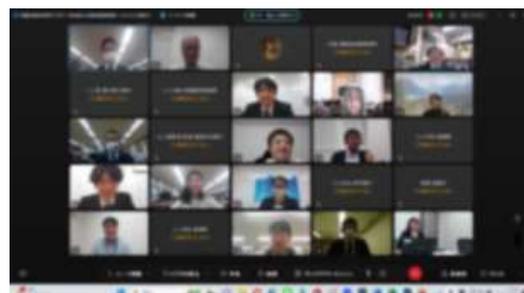
■対策いろいろ 防災ESD（香川県高松市）

LS 四国の分科会の一つである「南海トラフ香川液状化対策コンソーシアム」との連携で開催。取組発表では、南海トラフ地震香川液状化対策コンソーシアムが液状化被害や対策工法の紹介を、玉津みかん生産者（動画）・四国防災ボランティアネットワークによる西日本豪雨災害と復興に向けた取組等の情報共有を受けた。登壇者を含むブースごとの意見交換では、南海トラフ地震をはじめ、災害について知る、考える機会となった。



■四国地方における地域脱炭素創生ネットワーキング会（愛媛県四国中央市）

基調講演「地域で取り組む脱炭素～多様な主体とのパートナーシップ～」、「企業版ふるさと納税の活用方法・事例・実績」をテーマとした情報提供を行った。地方公共団体によるピッチ（15 地方公共団体×3 分）、ネットワーキングタイム（7ラウンド実施 ※1ラウンド 11 分間）を通じて、マッチングの機会を設けることができた。



■第3回 LS 四国表彰募集

LS 四国のビジョン・行動指針の内容に即し、ローカルSDGs（地域循環共生圏）の考え方に資する優れた事業・取組を表彰し、広く紹介することを目的に募集を行い、審査会を経て、賞を選定した。



第3回 LS 四国表彰募集

第3回 LS 四国表彰審査会
(香川県高松市・オンライン)

◆ローカルSDGs四国大賞/地域課題解決部門賞(徳島県)

四国山岳植物園 岳人の森「消えゆくものを残し、ふるさとを守り育てる花の里地域活動」

◆チャレンジ部門優秀賞(香川県)

(株)フクシン『「たくさんの笑顔を紡ぐ」取組』

◆ユース部門優秀賞

香川県立三本松高等学校「三高みんなの食堂プロジェクト」

◆審査委員特別賞

(一社) KUMAYAMA STORIES

「暮らしの中で 地域コミュニティをケアするコミュニティナース」

◆審査委員特別賞

(有) ハイプラ

「ペットボトルキャップからつくる持続可能な未来～新たな製品と子どもたちを救うワクチンハ～」

■表彰式(香川県高松市)

受賞団体による取組発表、受賞団体同士による質疑応答、LS 四国役員から表彰の授与を行った。



今年の賞状も、高知県立伊野商業高等学校の協力を得て作成した土佐和紙を使って作成！

ウ Web サイト等を活用した情報発信、PR

イベントや助成金情報などのホームページ掲載、メーリングリストを活用した情報発信を行った。2024年3月25日時点：会員数は、団体201団体(+28)、個人5名(+1)、協力機関15機関、アドバイザー3名。※2023年3月27日データと比較



↑会員や分科会の取組情報等を発信！



←月平均40件弱のイベントや助成金などの情報を掲載！

■LS 四国の原動力・実行役になっている「分科会」は7つあり、地域課題解決に向けて、イベント企画開催等、それぞれが自立して運営されている。

- ・ 四国 ESD チーム
- ・ 地域エネルギー分科会
- ・ 多文化共生型の減災社会づくり分科会
- ・ 南海トラフ地震 香川液化化対策コンソーシアム
- ・ 四国の奥山自然再生協議会準備会
- ・ 『森里川海プロジェクト・LS 四国』企業交流会分科会



サイボウズ株式会社が運営する「kintone」を使用し、会員の自発的な発信から、円滑なコミュニケーションや連携の強化、今後分科会による取組の展開につながる場を提供。
(毎月セミナーを開催)

LS 四国の概要や取組紹介、会員情報などを掲載したニュースレター（5号、6号）を発行、会員や関係者に送付した。



II-2. 環境再生保全機構・地球環境基金助成金説明会の開催

(独行) 環境再生保全機構が実施する「2024 年度地球環境基金助成金説明会」(11 月 6 日開催) の運営を行った。新型コロナウイルス感染症の 5 類移行を受け、高知市市民活動サポートセンター大会議室会場と Zoom を使用したオンライン接続による運営を行い、30 名の参加を得た。

■第 1 部「四国地域の助成先団体の取組活動事例の紹介」

過去に助成を受けた 2 団体「(特非) NPO 砂浜美術館 (高知県)」、「(認定特非) 四国自然史科学研究センター (高知県)」による活動発表があり、特にどの活動に対して助成金を活用したか、また活用によりどのようなメリットがあったか等、基金の特徴も含めて、参加者の参考となる具体的事例が話された。また、テーマとして設定した「他団体はどうしてる? ヒト・モノ・カネの活用事例!」に関しては、それぞれの活動に合わせた特色ある事例が発表された。



取組発表



パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、四国 EP0 がファシリテーターとなり、取組紹介団体のそれぞれの活動について「ヒト・モノ・カネ」の観点で議論を深めた。また参加者からの質問に対して、取組発表団体が回答し、相互にやりとりする機会を設けた。

■第 2 部「地球環境基金助成金要望の募集について」

助成金メニューや書類作成について、またよくある質問と回答について等の説明が行われ、申請内容にかかる理解を深める機会となった。

II-3. 環境再生保全機構・ステークホルダーミーティングの開催

(独行) 環境再生保全機構が実施する「2023 年度地域課題の解決に向けたステークホルダーミーティング」の企画・運営を行った。四国では、ユースとの対話・連携による地域の未来創造をテーマに 11 月 26 日 (日) に宇和島市青少年市民協働センター会場と Zoom によるオンライン接続による開催で、中高大学生を中心に 21 名が参加し、発表や意見交換を行った。



会場の様子

III-1. 四国地方 ESD 活動支援センター事業

本事業は環境省と文部科学省が協働で設置した四国地方 ESD 活動支援センター（四国 ESD センター）の受託事業である。SDGs の達成に向けた人材育成にもかかる ESD を推進していくことを目標に下記の事業を実施した。

(1) ESD 活動に関する域内情報の収集・発信及び情報提供等

ESD 活動に関する国内外の情報等を収集し、ホームページやメールマガジン、SNS で発信を行った。昨年度に引き続き、月 1 回のラジオでの情報発信等、外部メディアとの連携の機会にも恵まれた。その他、ESD 活動に関するプログラム・資料等を収集し、ESD 活動実践者等の求めに応じて提供を行った。



ホームページにて、イベントや助成金などの情報を発信



ラジオではさまざまなテーマからSDGsについて紹介

(2) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供

■四国 ESD バーチャル大学の開催

ESD を軸に、どこにいても、誰でも共に学び合うことができ、学びの可能性を広げ、ネットワークを維持し且つ豊かなものにする機会として、四国 ESD バーチャル大学を開催した。昨年度に引き続き今年度も「気候変動教育」をキーワードとして実施。オンラインと実践、双方からの学びを提供し、その成果を「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2023」で発信した。

①甘いバナナの苦い現実 (フェアトレード×気候変動教育) 2023年6月22日(木) 13:30-15:30 共催:新居浜市生涯学習センター(地域ESD拠点) 参加者42名(会場22名、オンライン20名)	②災害状況バーチャル体験 (防災×気候変動教育) 2023年9月8日(金) 10:00-12:00 会場:香川大学林町キャンパス 参加者11名
③気候変動教育プログラム (国際×気候変動教育) 2024年1月11日(木) 13:00-14:30 共催:高知県地球温暖化防止活動推進センター 参加者10名	④ESD/SDGs ツアーってどんなもの? (ツアー×気候変動教育) 2024年1月28日(日) 10:00-11:30 協力:NPO法人どんぐり王国(地域ESD拠点) 参加者12名

※ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2023

2023年12月9日(土) 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)で開催。
 参者250名。

(3) ESD 活動に関するネットワークの構築

ア ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催

新居浜市、新居浜市教育委員会との共催で「四国 ESD フォーラム 2024」を開催。当日は四国内外から 91 名の参加があった。フォーラムではオープニングコンサート、新居浜市 SDGs 推進プラットフォーム活動紹介、新居浜 ESD for SDGs リレートーク、四国のユース ESD/SDGs 事例発表等のプログラムを通じて、それぞれのテーマで参加者同士が学びあう機会を作ることができた。



あかがねミュージアム



オープニングコンサートの様子



新居浜 ESD for SDGs リレートーク



高校生からのコメントで
双方向の学びに。



四国のユース ESD/SDGs 事例発表

イ 地域の ESD 拠点等の ESD 活動の支援

新たに 1 団体が加わり、四国の地域 ESD 拠点は 21 団体に増えた。(番号は登録順、赤下線は今年度の新規登録団体)

愛媛県

- ① 新居浜市教育委員会
- ③ IKEUCHI ORGANIC 株式会社
- ⑦ 株式会社平野 平野薬局
- ⑧ NPO 法人 えひめグローバルネットワーク
- ⑭ 一般社団法人ノヤマカンパニー
- ⑯ NPO 法人 どんぐり王国
- ⑰ えひめ森林公園
- ⑱ 株式会社タイチ
- ⑳ 新居浜市生涯学習センター

高知県

- ⑤ 株式会社 土佐山田ショッピングセンター
- ⑥ 室戸ジオパーク推進協議会
- ⑬ 株式会社 相愛
- ⑳ 豊永郷民俗資料館



香川県

- ② 高松ユネスコ協会
- ⑨ うどんまるごと循環プロジェクト
- ⑮ 善通寺こどもエコクラブ

徳島県

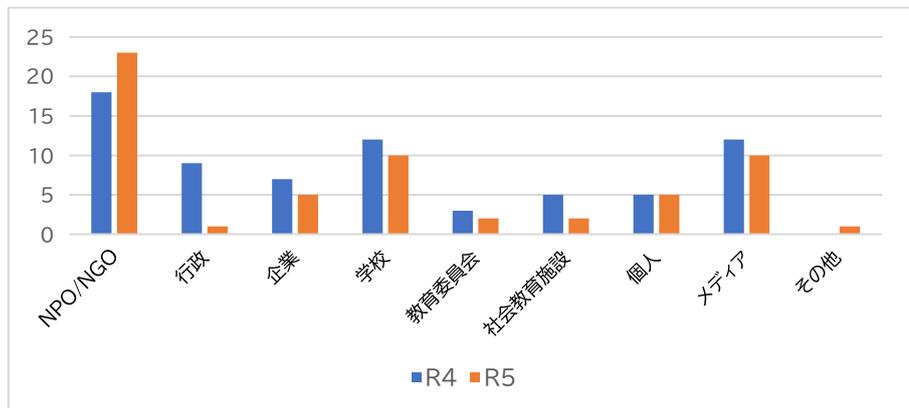
- ④ 株式会社 ハレルヤ
- ⑩ 一般社団法人そらの郷
- ⑪ パンゲアフィールド
- ⑫ 株式会社 井上組
- ⑰ YMCA 阿南国際海洋センター

地域 ESD 拠点との連携

- ◆ESD バーチャル大学連携 ⑩⑯⑳
- ◆四国 ESD フォーラム連携 ①⑳
- ◆ESD 全国フォーラム連携 ⑳
- ◆LS 四国表彰副賞協力 ④⑤⑧⑨⑯
- ◆新居浜 ESD ツアー ①
- ◆ESD 拠点連携 ⑧⑰

(4) 四国 ESD センターに関する相談・支援窓口

地域の ESD 活動実践者・実践団体（学校や社会教育施設、NPO/NGO、企業）等から、ESD 活動を実践するに当たって相談や支援の要請に対応し、必要に応じて助言や各種会合への出席等を行った。



相談主体の内訳

(5) 全国センターとの連携協力の推進等

ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会、全国協力団体意見交換会及び企画運営委員会に参加し情報共有を行った。

(6) 四国 ESD センター運営委員会の開催

7月と3月の2回開催し、業務実施計画（案）や事業方針等について協議を行った。



★ESD 拠点カレンダーや広報誌の作成を通じて活動 PR を行った。★

The collage includes various photos of ESD activities such as fieldwork, community meetings, and educational programs. A central map of Shikoku highlights the four regional ESD centers. Below the map is a calendar for 2024, with specific dates marked for events and activities across all four regions (R1, R2, R3, R4).

III-2. 外務省 NGO 相談員事業

本事業は、より多くの市民や他セクターが国際協力に関心を持てるよう相談対応することを目的とした外務省委託業務である。全国 10 カ所の内「四国ブロック」を担当し、四国にある中小規模・零細規模の NGO が組織強化できるよう情報提供し、四国各県での出張サービス実施、SNS 等を活用した広報・啓発活動を通じて、ODA や NGO への理解・関心を高めることに注力した。

相談対応業務では、より多くの市民や他セクターが国際協力に関心を持ち、ODA・国際協力に関する理解促進を図ることができるよう相談対応を実施した。相談者は NGO 関係者が最も多く全体の 30.8%を占めた。次いで、学生・生徒、教育関係者で、いずれも約 20%前後を占めた。相談内訳は、開発教育・フェアトレード・国際理解についての相談が最も多く、29.2%となった。次いで、NGO 団体・NGO の活動が 29%を占めた。

小学生から大学生までの幅広いユース層には、特にわかりやすく国際協力の重要性を伝えたり、ODA や国際協力イベントの情報などを提供し、SNS 等で発信し続けたことで、興味・関心を引き上げることができたと考える。結果として、目標としていた相談対応件数の月平均 80 件を超え、月平均で 98 人を対象に 82 件の相談対応を行うことができた。

出張サービスについては、目標としていた 10 件を超え、合計 11 回の実施ができた。しかし、愛媛県 5 回、高知県 2 回、香川県 2 回、徳島県 1 回、大阪府 1 回の実施となり、四国 4 県のバランスは取れず、また実施が後半に偏った。そのため、徳島県についてはパブコメ・オンライン勉強会を開催するなど、出張サービスを代替する機会を設けるなど工夫した。今回、初めて関西最大の国際協力フェスティバル「ワン・ワールドフェスティバル」に参加したが、東京のグローバル・フェスティバルとの違いや関西圏における NGO 連携のメリットも感じることができ、情報収集もできたことが成果のひとつとなった。

SNS による告知・広報を行い、リーチ数月平均目標 900 件、年間 10,800 件のところ、月平均約 1,118 件、年間 13,422 件で大幅に目標を達成することができた。団体事務所の路面側における掲示場所を活用し、国際協力イベント情報や NGO からの広報を常に行い、広く一般市民に普及・啓発することができた。



Ⅲ-3. JICANGO 提案型事業・多文化共生型の減災社会づくり実践研修

本事業は、JICA 四国との連携で 2021 年度より開始した。研修は、世界や地域で防災や災害支援に携わってきた講師を招き、国内外の減災や多文化共生の方法を学ぶとともに、四国各県においてそれぞれ想定される災害や、地域の在住外国人の状況（在留種別や人口比）などに合わせ、防災・減災教育を一緒につくり、在住外国人向けワークショップを実施するなど、2021～2023 年度にかけて 10 回の研修を開催した。

この研修実施を通じて、自助・共助を推進できる人材育成や四国の災害特性と減災対策の把握、平時からの四国における減災・多文化共生ネットワーク

の形成、在住外国人向けの防災・減災教育プログラムづくりを目指した。2023 年度は、対面研修・現地視察とワークショップを香川県小豆島、愛媛県西条市で実施し、オンラインにてネットワーク研修を実施した。研修・ワークショップでは、高校生や地元の関係者が中心となり、参加した外国人に対してコミュニケーションを取り、研修・ワークショップを進めた。

研修のとりまとめとして、今後の普及啓発に役立つパンフレットおよび PR 動画を作成した。



JICA「NGO 等提案型プログラム」受託事業の一環で制作した、多文化共生型の減災社会づくり PR 動画（やさしい日本語、ベトナム語、英語）と同プログラムの紹介は、右記のページで参照可能です。



https://www.sgn.or.jp/public/tabunka_kyousei_2024.html

①香川県小豆島研修・ワークショップ内容

小豆島研修・ワークショップ実施報告

【日時】2023年8月5日①②研修・現地視察(21名)、8月20日ワークショップ(25名)
 【講師】研修:さんすい防災研究所、災害情報支援ポータル、香川大学地域強靱化研究センター
 【協力】小豆島町、土庄町、香川県
 【内容】5日:講義、現地視察
 20日:WS開催に向けた意見交換、在住外国人向けWS、ふりかえり

【気づき・感想】

●研修

- ・「支援する力」だけでなく、「支援を受ける力」を高める事は大切と感じた。
- ・災害時外国人ヘルプカードや支援アプリ(翻訳アプリ)、多言語指差しボード、外国人向けの防災ガイドブック等色々あることを知った。
- ・情報は行動、対応の指針だと思うので、集め方や活用の方法を日頃から練習が必要

●ワークショップ

- ・太平洋側と瀬戸内海沿岸での災害の違いを実感した。
- ・みんな楽しみながら外国人の人たちとの交流をしていた。
- ・外国の方もしっかり話を聞き、研修内容を理解しようという前向きさが感じられた。
- ・外国の方達と共に目的意識をもってできたことは良かったと思いました。



②愛媛県西条市ワークショップ内容

研修実施報告(愛媛開催)

西条市
SAEJIMA CITY

【日時】2023年12月16日ワークショップ
 (計67名:高校生22名、教諭3名、外国人14名、一般28名)
 【講師】さんすい防災研究所
 はずむ日本語
 NPO法人減災教育普及協会
 西条市危機管理課

【気づき・感想】

- ・普段から顔を知り、話すことが大切。
- ・外国の方が不安に思っている生の声がきけて良かった。
- ・今まで防災訓練を行ってきたが、初めて得た内容が多くあった。
- ・防災グッズを組み立てるだけのワークは多いが、やさしい日本語へと変換する事が外国人材だけでなく災害時応用で使える実用的な研修だと思った。
- ・ベトナムの方と話した時、言語の壁を感じたがコミュニケーションで乗りこえられた。笑顔で話してもらえただけで嬉しかった。
- ・被災時のbetterという考え方に強く共感した。



参加者満足度(5段階)



③ネットワーク形成会議

ネットワーク形成会議

【日時】2022年12月16日 オンライン会議(30名)
 2024年2月21日 オンライン会議(20名)
 【講師】さんすい防災研究所
 (公財)PHD協会
 (認定特非)全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)
 (特非)減災教育普及協会
 (特非)あったかいよう
 (特非)東北ボランティア有志の会香川
 ・四国防災ボランティアネットワーク
 (特非)U. grandma JAPAN
 (特非)NPO 砂浜美術館

【内容】多様なアクターとの多文化共生
 ネットワーク形成に向けた活動報告

【気づき・感想】

- ・平時からのつながりというキーワードが印象的だった。
- ・災害時の外国人特性をわかりやすくまとめられており、連携で求められる資質を把握できた。
- ・多文化共生はネットワークが命と思った。
- ・被災者支援コーディネーションのありかたを学んだ。
- ・多様な参加者との意見交換と課題共有ができた。
- ・まとめるには少し時間が足りなかった。
- ・地域ごとのグループ分けだったので話題を身近に感じられた。
- ・「ワーク」があっただけでネットワークとのコメントで、着眼点がわかった。
- ・四国は広域で対面の機会は少ないが、防災分野にかかわらず、一度つながった人・団体との接点を意識することが重要と認識した。

(以上、抜粋)



Ⅲ-4. 愛媛県・えひめ森林公園 ESD プログラム作成業務

えひめ森林公園 ESD プログラムの教材を活用した児童及び指導者向けのプログラムの実施を通じて、豊富な自然の中で SDGs を学ぶことができる施設としてえひめ森林公園の認知度向上を図るとともに、森林・林業に関する知識の習得、体験等を通じて持続可能な社会づくりに取り組む人材の育成を目的に昨年度に引き続き実施した。

(1) 児童向けプログラム企画・運営

本年度は次のとおり、伊予市の小学校 2 校がプログラムを実施した。

- ① (6月7日)「森の働きを知ろう！」＝伊予小学校 5 年生 (2 クラス 67 名)
- ② (10月3日)「ドングリと遊ぼう！」＝翠小学校 1 年生 (1 名)、2 年生 (3 名)



(2) 指導者向け研修プログラム企画・運営

- ① えひめ森の案内人会を対象とする指導者研修 (10月13日)
- ② 小中学校用「えひめ森林公園 ESD プログラム」ファイルの作成
- ③ 伊予市小中学校校長会において「えひめ森林公園 ESD プログラム」ファイルを説明・配布 (1月11日)
 - ・ ESD に関する情報提供
 - ・ えひめ森林公園の取組
 - ・ えひめ森林公園を活用した ESD プログラムのご紹介



III-5. 東雲 ESD コミュニティファーム活動報告

東雲地区のタウンミーティング（2013年12月）における EGN からの提案で東雲公園の一部未利用地を「コミュニティファーム」として活用することが可能となり、2014年から東雲小学校2年生とともに生活科の授業の一環として取り組んでいる「東雲 ESD コミュニティファーム」を2023年度も多様な主体と連携しながら実施した。

2023年は、平年より梅雨入りが1週間早まったこと、雨天順延を想定しても雨天予報が続いて苗植えの予定が立てられないこと、まち探検の実施も困難といった理由で、雨でも実施できる方法を検討した。結果、前日に学校からテントを運んで設置することし、風で飛ばされないよう工夫したほか、EGN 事務所では、児童が NPO の見学も兼ねて絵本読み聞かせの会場として活用できるよう準備し、実施することができた。



6月8日、小雨が降ったり止んだりする天候だったが、「えひめ311」、「森からつづく道」、清水小学校図書支援員、松山大学学生とともに、2年生児童52名がサツマイモの苗を植えるサポート、サツマイモクイズ、防災につながる東雲コミュニティファームの取組説明、絵本の読み聞かせを組み合わせた授業を行った。絵本は、「サツマイモ」、「おいもができた」、「ぼくだんごむし」など木村支援員の協力を得た。クイズの実施では、雨が降り始めた際は、急遽、公園から近所の方の倉庫へ移動して実施したり、雨が止んで公園に戻った際には、子どもたちが楽しく参加できるように、身体を動かしながら実施するなど工夫を重ねつつ、臨機応変に対応した。



6～11月の収穫までの間は、東雲小学校児童たちが自主的に水やり、草引きに参加したほか、授業の一環としても、草引きと水やりのお世話をしながらサツマイモを育て、スタッフや学生が随時対応した。しかし、2023年度は夏の日照りが強く、過去最低の水準で葉の育ちも悪く、今までの半分程度の生育で非常に状態が悪かった。そのため、途中でえひめ311と相談して、ジャガイモの苗を植え足し、収穫前には、徳島のNPOより分けてもらった鳴門金時も応援物資として用意し、子どもたちが残念な思いをしないよう備えた。

11月21日、サツマイモの収穫は、例年に比べると小さめで少なかったが、子どもたちにとっては初めてのお芋ほり体験で、十分楽しんでいる様子が見られた。サツマイモを植えたのにジャガイモも出てきてびっくりする子どもたちもいたが、お土産の鳴門金時も含め、喜んでもらうことができた。サツマイモクイズの復習と東雲公園内の植物の学習も行い、大学生やNPO関係者とともに、地域連携によるESD実践を進めることができた。



Ⅲ-6. 講師派遣および持続可能な開発のための教育(ESD) 普及啓発

2023年4月～2024年3月の期間中、84回の講演・講師等を実施し、のべ5,424名に対しESDを伝える機会を得た。その内容は以下のとおり。

No.	月	日	曜日	名称	内容	参加者・対象	対象人数	担当者	事業名
1		19	金	松山市立福音小学校	「平和」について考えよう!	小学6年生	100	竹内	平和の語り部
2	5	21	日	さぬきマルシェinサンポート	NGO相談員出張サービス	一般市民	150	竹内	NGO相談員
3		31	水	愛媛大学附属高等学校	モザンビークの文化と愛媛とモザンビークの交流について	高校2年生	32	竹内	EGN
4		13	火	松山市立北久米小学校	「平和」について考えよう!	小学6年生	95	竹内	平和の語り部
5		15	木	愛媛大学社会共創学部入江研究室	環境経済論講義	大学2,3回生	31	常川	四国EPO
6	6	22	木	新居浜市生涯学習大学 世界知トク・なつク講座	対話が創る新しい世界	新居浜市民	42	竹内	EGN
7		22	木	香川県立善通寺第一高等学校	総合的な探究の時間の指導	高校2年生	26	宇賀神	四国ESDC
8		23	金	香川大学全学共通科目	「身の回りの環境問題B」 ESD/SDGs講義	大学1回生	250	宇賀神	四国ESDC
9		30	金	新居浜市生涯学習大学 世界知トク・なつク講座	平和について学ぼう・トランセンド	新居浜市民	18	竹内	EGN
10		3	月	新居浜東高等学校	ESD×国際協力、グローバル・ローカルかるた	高校1年生	29	竹内	環境マイスター
11		5	火	香川型教育メソッド研究会・高松高校	探究学習支援	高校1,2年生	49	宇賀神	四国ESDC
12	7	6	木	人権啓発推進員養成講座(昼の部)	地域での人権教育・啓発の取組を積極的に推進するリーダーを養成	松山市民、 人権推進員	40	竹内	EGN
13		6	木	人権啓発推進員養成講座(夜の部)	地域での人権教育・啓発の取組を積極的に推進するリーダーを養成	松山市民、 人権推進員	11	竹内	EGN
14		12	水	愛媛県中予地域婦人教育研修会	モザンビークの事業、フェアトレード、フェアトレードのワークショップ	婦人会、市民	70	竹内	EGN
15		27	木	新居浜市生涯学習大学 世界知トク・なつク講座	対話が創る新しい世界 モザンビーク・元バラ選手との交流	新居浜市民	30	竹内	EGN
16		4	金	松山市立新玉小学校	ESD打合せ	教員	3	竹内	MIC-ESD
17		5	土	愛媛大学法文学部、社会共創学部	インターン(~9/12)	大学3回生	2	竹内	EGN
18	8	16	水	SDGsアドバイザー	SDGs研修・西田塗装店	企業	3	常川	四国EPO
19		17	木	松山大学人文学部	インターン(~8/20)	大学2回生	1	竹内	EGN
20		24	木	SDGsアドバイザー	SDGs研修・西田塗装店	企業	8	常川	四国EPO
21		6	水	SDGsアドバイザー	SDGs研修・西田塗装店	企業	3	常川	四国EPO
22		7	木	自治体国際化協会 国際協力推進セミナー	世界とつながる地方自治体	全国の自治体・国際交流協会・NGO・NPO・ 企業・学生・一般市民等	167	竹内	EGN
23		11	月	松山市立東中学校	職場体験学習(~9/13)	中学2年生	2	竹内	EGN
24		11	月	松山大学人文学部	インターン(~9/13)	大学2回生	1	竹内	EGN
25	9	12	火	松山市立姫山小学校	ESD打合せ	教員	1	竹内	MIC-ESD
26		15	金	松山南ライオンズクラブ	モザンビーク支援活動	ライオンズクラブ 会員	30	竹内	EGN
27		21	木	香川県立善通寺第一高等学校	総合的な探究の時間の指導	高校2年生	26	宇賀神	四国ESDC
28		22	日	松山市立たちばな小学校	ESD打合せ	教員	1	竹内	MIC-ESD
29		27	水	松山市立姫山小学校	「平和」について考えよう」 ~世界の現状を知ろう~	小学6年生	90	竹内	四国ESDC
30		29	金	徳島県中小企業団体中央会 「組合SDGs」	SDGs研修	組合員	10	常川	四国EPO

No.	月	日	曜日	名称	内容	参加者・対象	対象人数	担当者	事業名
31		3	火	松山市立味生第二小学校	ESD打合せ	教員	1	CL松本	MIC-ESD
32		5	木	香川県立善通寺第一高等学校	探究学習	高校2年生	26	宇賀神	四国ESDC
33		9	月	かが国国際フェスタ2023	NGO相談員出張サービス	一般市民	74	竹内	NGO相談員
34		10	火	愛媛県立松山中央高等学校	ESD打合せ	教員	1	竹内	MIC-ESD
35		12	木	松山市市民活動体験研修	NPO研修	松山市職員	5	竹内	EGN
36		16	月	松山市立高浜小学校	ESD打合せ	教員	1	竹内	MIC-ESD
37		20	金	こうちカーボンニュートラル推進フォーラム2023	脱炭素社会が拓く企業の未来～	企業・一般市民	214	常川	四国EPO
38		20	金	愛媛県立中央高等学校	Human Rights SDGsと人権～多文化共生の視点から考える～	高校1～3年生	1,050	竹内	MIC-ESD
39		22	日	松山市立たちばな小学校	ESD打合せ	教員	1	竹内	MIC-ESD
40		22	日	松山市立清水小学校	ESD打合せ	教員	1	竹内	MIC-ESD
41		23	月	松山市立清水小学校	国際理解教育	小学6年生	75	木村	MIC-ESD
42	10	24	日	松山市立たちばな小学校	ESD打合せ	教員	1	竹内	MIC-ESD
43		24	火	聖カタリナ大学	多文化共生論	大学2回生	43	竹内・飯田	EGN
44		25	水	松山市立日浦中学校	職場体験学習(～10/27)	中学2年生	1	竹内	EGN
45		25	水	松山市立姫山小学校	ESD/キャリア教育・NGOの仕事	小学6年生	90	竹内・木村・安永	EGN MIC-ESD
46		25	水	松山市立荏原小学校	世界を知ろう！～アフリカ・モザンビークの魅力とSDGs～	小学6年生	93	竹内・木村・安永・飯田	MIC-ESD
47		26	木	松山市立清水小学校	モザンビークとの交流や支援活動について	小学6年生	75	竹内・木村・安永	MIC-ESD
48		26	木	松山市立新玉小学校	つながりひろがる学びの創造 ユネスコスクールで目指すSDGs	小学6年生	86	竹内・木村・安永・飯田	MIC-ESD
49		26	木	松山市立味生第二小学校	世界の国々の文化や生活の様子を知ろう	小学5年生	86	CL松本	MIC-ESD
50		27	金	松山市立高浜小学校	総合的な学習(キャリア教育)	小学5、6年生	94	竹内・木村・安永・飯田・蔵野	MIC-ESD
51		27	金	高知県立清水高等学校	倫理国語、地理総合	小学2年生	30	竹内・飯田	EGN
52		27	金	松山市立たちばな小学校	総合的な学習(キャリア教育)	小学5年生	90	竹内・木村・安永・飯田・蔵野	MIC-ESD
53		31	火	新居浜市SDGs推進プラットフォーム	第2回全体会セミナー 分科会プレゼン・交流会	新居浜市SDGs推進協議会会員	62	竹内	EGN
54		3	金	市民広島文化イベント～ヒロシマの思い、世界に届け！～	モザンビークの武器アートから学ぶ平和	広島市民	40	竹内・安永	EGN
55	11	8	水	徳島県中小企業団体中央会「組合SDGs」	SDGs研修	組合員	10	常川	四国EPO
56		19	日	高知国際ふれあい広場	NGO相談員出張サービス	高知市民・県民	10	竹内	NGO相談員
57		24	金	松前町立岡田小学校	世界のくらしと私たちの暮らし「環境」と「平和」～モザンビークの経験を通して～	小学5、6年生	187	竹内・飯田	EGN
58		1	金	松山市立北中学校	キャリア教育 国際協力の仕事	中学2年生	141	竹内	MIC-ESD
59		5	火	香川型教育メソッド研究会・白鳥小中学校	指導助言	中学生、高校生	70	宇賀神	四国ESDC
60		6	水	愛媛県・愛媛大学「消費生活講座」	消費者教育「フェアトレード」	大学生、一般市民	75	竹内	EGN
61		8	金	愛媛大学附属高等学校	ESD打ち合わせ	教員	2	竹内	EGN
62		11	月	愛媛大学附属高等学校・企業講和	モザンビークのESD for 2030～環境と教育の視点から考える～	高校1年生	121	竹内・蔵野・飯田	EGN
63		11	月	四国大学	エコライフ論・生活環境学	大学3回生	80	常川	四国EPO
64		12	火	とくしまフューチャーアカデミー(TFA)	パブリックコメント勉強会	TFA研修生	12	竹内	EGN
65		20	水	松山市立味生第二小学校	世界の人々の文化や生活の様子を知ろう	小学5年生	86	CL松本	MIC-ESD

No.	月	日	曜日	名称	内容	参加者・対象	対象人数	担当者	事業名
66	15	月		徳島文理大学総合政策部	NGO相談出張サービス「SDGsと国際協力活動」 四国EPO「SDGsと環境」	大学4回生	16	竹内・常川	NGO相談員、 四国EPO
67	19	金		宇和島市立畑地小学校	SDGs交流学習会	小学1～6年生	25	竹内・飯田・ 蔵野	NGO相談員
68	20	土		第2回高知大学「地域×国際」セミナー「まぜこじゃ KOCHI～土佐と世界をいっぢきちもんぢきち」	NGO出張サービス	大学生、一般市民	20	吉田	NGO相談員
69	20	土		五井平和財団 ローカルSDGsキャンパスミーティング	NGO出張サービス	高校生・大学生	35	竹内	NGO相談員
70	25	木		愛媛県中小企業家同友会インタビューシップ 愛媛県立松山北高等学校	キャリア教育・NPO/NGOの仕事	高校2年生	5	竹内	EGN
71	1	26	金	松山市立新玉小学校	ユネスコウイーク	小学1年生	102	木村	MIC-ESD
72	26	金		松山市立新玉小学校	ユネスコウイーク	小学2年生	79	木村	MIC-ESD
73	26	金		松山市立新玉小学校	ユネスコウイーク	小学6年生	86	竹内	MIC-ESD
74	30	火		松山市立新玉小学校	ユネスコウイーク	小学4年生	89	竹内	MIC-ESD
75	30	火		松山市立新玉小学校	ユネスコウイーク	小学3年生	88	竹内	MIC-ESD
76	30	火		松山市立新玉小学校	ユネスコウイーク	小学5年生	90	竹内・木村	MIC-ESD
77	3	土		ワン・ワールド・フェスティバル (大阪)	NGO出張サービス(～2/4)	NGO関係者、 一般市民	28	竹内	NGO相談員
78	7	水		徳島県中小企業団体中央会 「組合SDGs」	SDGs指針作成検討会	組合員	12	常川	四国EPO
79	15	木		松山市立味生第二小学校	国際理解教育・フィリピンとの交流	小学5年生	89	CL松本	MIC-ESD
80	2	19	月	T大学(R大学)	インターンシップ(～3/4)	大学1回生	1	竹内	EGN
81	27	火		愛光学園中学校	総合的な探求の学習 「将来の仕事・国際協力NGOの仕事」	中学2年生	220	竹内・岡田	NGO相談員
82	28	水		伊方町立大久小学校	大久小学校魅力化プロジェクト モザンビークを通じた国際理解教育	小学2～6年生、 教育委員会	20	竹内・岡田	EGN
83	29	木		松山市立日浦小中学校	国際理解教育	中学1・2年生	16	竹内・岡田	NGO相談員
84	3	5	火	愛媛県立松山北高等学校 ×愛媛大学付属高等学校	合同国際理解教育	高校1、2年生	48	竹内	NGO相談員

【合計：84回 / 5,424名】

※上記以外でも、四国4県の委員やイベント展示等、多数参画した。

Ⅲ-7. 協働オフィス運営と中間支援連携

2023年度は、当団体が運営する協働オフィス（松山市東一万町2第3森ビル1F）を、特定非営利活動法人えひめ311とともに活用した。

災害支援・減災社会づくりにおける中間支援活動として、11月18日にサンポート高松で開催された「防災とボランティアのフェスティバル」へ出展し、主催団体の「四国災害ボランティアネットワーク」と意見交換を行い、今後の災害支援に関する中間支援連携強化について関係者と意見交換を行った。

また、2024年1月1日に発生した能登半島地震支援の街頭募金を、1月6日に松山市駅前前で実施した。募金活動には、2歳から80歳までのボランティア20名以上が参加、集めた募金は、現地で炊き出し支援に入っている特定非営利活動法人難民を助ける会（AAR Japan）に寄付した。

2024年3月、宇和島NPOセンターと連携し、宇和島市立遊子小学校児童が作成した「防災マップ（文部科学大臣賞受賞）」をカレンダーとして作成し、地域への全戸配布を支援した。



IV. 管理運営等

1. 組織運営

(1) 事務局運営

本部・愛媛県松山市および香川県、徳島県、高知県の四国 EP0 事業実施のため、常勤および非常勤の人材を新規ならびに継続雇用し事務局の体制を整えた。

(2) 役員体制

2023 年度は以下の役員体制とし、役員間のコミュニケーションについては、理事メールや WEB 会議を活用し、理事候補を含めた意見交換を図り、理事会は、第 1 回 4 月 20 日、第 2 回 6 月 30 日、第 3 回 7 月 23 日、第 4 回 10 月 21 日、第 5 回 1 月 13 日、第 6 回 3 月 24 日の日程で、年 6 回開催した。

役職名	氏名	所属他
代表理事	竹内 よし子	えひめグローバルネットワーク代表理事
理事・ 共同代表 理事	常川 真由美	えひめグローバルネットワーク常任理事(四国 EP0 所長)
	亀山 公実子	えひめグローバルネットワーク常任理事(四国 EP0 事務局長)
〃	上田 稔	学校法人聖カタリナ学園財務理事法人事務局長
〃	小松 柊成	特定非営利活動法人にいほまグローバルネットワーク代表理事
〃	森 源二郎	四国糧油株式会社代表取締役
監事	鈴木 靖彦	J A えひめ中央
顧問	薦田 伸夫	弁護士
〃	堀田 学	社会保険労務士

2. 決算報告

(1) 活動計算書

活動計算書

[税込] (単位:円)

自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日

	特定非営利活動 に係る事業	合計
【経常収益】		
【受取会費】		
正会員受取会費	280,000	
協力会員受取会費	66,000	
賛助会員受取会費	20,000	366,000
【受取寄付金】		
受取寄付金		1,493,644
【事業収益】		
事業 収益	1,927,804	
受託事業収益	49,097,589	51,025,393
【その他収益】		
受取 利息	73	
雑 収 益	1,157,446	1,157,519
経常収益 計		54,042,556
【経常費用】		
【事業費】		
(人件費)		
給与	24,968,678	
法定福利費	2,779,387	
福利厚生費	23,752	
人件費計	27,771,817	
(その他経費)		
売上 原価	165,246	
業務委託費	2,440,000	
諸 謝 金	4,231,374	
外 注 費	2,164,250	
印刷製本費	894,086	
会 議 費	66,032	
旅費交通費	6,002,055	
車 両 費	17,048	
通信運搬費	1,495,755	
消耗品 費	1,086,263	
修 繕 費	1,236,661	
水道光熱費	207,172	
地代家賃	35,767	
賃 借 料	990,128	
減価償却費	588,903	
保 険 料	214,086	
諸 会 費	233,897	
新聞図書費	245,080	
租税 公課	2,340,000	
支払手数料	131,629	
支払利息	122,582	
その他経費計	24,908,014	
事業費 計		52,679,831

活動計算書

[税込] (単位: 円)

自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日

	特定非営利活動 に係る事業	合計
【管理費】		
(人件費)		
給料 手当	0	
人件費計	0	
(その他経費)		
印刷製本費	22,386	
会 議 費	7,542	
旅費交通費	25,251	
通信運搬費	118,276	
消耗品 費	46,444	
修 繕 費	363,000	
水道光熱費	37,764	
賃 借 料	4,290	
減価償却費	37,924	
保 険 料	16,085	
諸 会 費	18,475	
租税 公課	39,807	
支払手数料	2,530	
雑 費	748	
その他経費計	740,522	
管理費 計		740,522
経常費用 計		53,420,353
当期経常増減額		622,203
【経常外収益】		
修繕引当金戻入額		1,599,661
【経常外費用】		
経常外費用 計		0
税引前当期正味財産増減額		2,221,864
法人税、住民税及び事業税		29,500
当期正味財産増減額		2,192,364
前期繰越正味財産額		18,544,919
次期繰越正味財産額		20,737,283

(2) 財産目録

財 産 目 録

[税込] (単位:円)
2024年 3月31日 現在

		《資産の部》	
【流動資産】			
現 金		378,163	
普通 預金			
伊予銀行/緑台支店①	379,217		
伊予銀行/緑台支店②	30,003		
愛媛銀行/道後支店①	3,036,412		
愛媛銀行/道後支店②	153,405		
愛媛信用金庫/本店営業部①	1,184,775		
愛媛信用金庫/本店営業部②	387,716		
みずほ銀行/松山支店	76,512		
百十四銀行/松山支店	178,200		
四国労働金庫/松山支店	176,371		
ゆうちょ銀行/六一八支店	81,228		
ゆうちょ銀行/一六九支店①	459,302		
ゆうちょ銀行/一六九支店②	18,201	6,161,342	
未 収 金			
環境省中国四国地方環境事務所	7,162,275		
(独)国際協力機構四国センター	2,299,220		
外務省	552,641		
高知県計画推進課	9,000		
(公財)松山国際交流協会	265,600		
(株)JATS	20,015	10,308,751	
販売用商品		321,201	
前払 費用		560,218	
流動資産合計			17,729,675
【固定資産】			
土 地		8,400,000	
建 物			
事務所及びカフェ	6		
モザンビーク公民館	4,968,226	4,968,232	
建物附属設備		227,283	
構 築 物		1,158,836	
工具器具備品			
事務所事務機器等	4		
カメラ	1		
パソコン	340,458	340,463	
固定資産合計			15,094,814
資産の部 合計			32,824,489

財 産 目 録

[税込] (単位:円)
2024年 3月31日 現在

《負債の部》			
【流動負債】			
未払法人税等		29,500	
未払消費税等		1,198,300	
未 払 金			
職員給料	1,677,574		
社会保険料	403,179		
事務所諸経費	316,291	2,397,044	
短期借入金			
愛媛銀行/道後支店	4,000,000		
理事	1,000,000	5,000,000	
預 り 金			
社会保険料	449,671		
源泉所得税	175,152		
住民税	47,200	672,023	
流動負債 計			9,296,867
【固定負債】			
長期借入金			
愛媛銀行/道後支店	1,840,000		
愛媛信用金庫/本店営業部	350,000	2,190,000	
修繕引当金		600,339	
固定負債 計			2,790,339
負債の部 合計			12,087,206
正味財産			20,737,283

※その他の事業は実施していません。

(3) 貸借対照表

貸借対照表

[税込] (単位:円)

2024年 3月31日 現在

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払金	2,397,044
現金	378,163	短期借入金	5,000,000
普通預金	6,161,342	預り金	672,023
現金・預金計	6,539,505	未払法人税等	29,500
		未払消費税	1,198,300
(売上債権)		流動負債計	9,296,867
未収金	10,308,751	【固定負債】	
売上債権計	10,308,751	修繕引当金	600,339
(棚卸資産)		長期借入金	2,190,000
販売用商品	321,201	固定負債計	2,790,339
販売用商品計	321,201	負債合計	12,087,206
(その他流動資産)		正味財産の部	
前払費用	560,218	【正味財産】	
その他流動資産計	560,218	前期繰越正味財産額	18,544,919
流動資産合計	17,729,675	当期正味財産増減額	2,192,364
【固定資産】		正味財産計	20,737,283
(有形固定資産)		正味財産合計	20,737,283
土地	8,400,000		
建物	4,968,232		
建物附属設備	227,283		
構築物	1,158,836		
工具器具備品	340,463		
有形固定資産計	15,094,814		
固定資産合計	15,094,814		
資産合計	32,824,489	負債及び正味財産合計	32,824,489

(4) 計算書類の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は最終仕入原価法によっています。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 定率法を採用しています。

但し、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）及び平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備並びに構築物については、

定額法を採用しています。

無形固定資産 定額法を採用しています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込み経理方法によっています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

科目	国際協力 教育・ネット ワーク事業	販売事業	環境事業	事業部門計	管理部門	合計
I. 経常収益						
1. 受取会費						
正会員受取会費					280,000	280,000
協力会員受取会費					66,000	66,000
賛助会員受取会費					20,000	20,000
2. 受取寄付金	1,493,644			1,493,644		1,493,644
3. 事業収益						
事業 収益	1,510,438	417,366		1,927,804		1,927,804
受託事業収益	15,554,477		33,543,112	49,097,589		49,097,589
4. その他収益						
受取 利息					73	73
雑 収 益	1,130,585			1,130,585	26,861	1,157,446
経常収益 計	19,689,144	417,366	33,543,112	53,649,622	392,934	54,042,556
II. 経常費用						
(1) 人件費						
給与	5,039,859	350,047	19,578,772	24,968,678		24,968,678
法定福利費	323,721		2,455,666	2,779,387		2,779,387
福利厚生費			23,752	23,752		23,752
人件費計	5,363,580	350,047	22,058,190	27,771,817		27,771,817
(2) その他経費						
売上 原価		165,246		165,246		165,246
業務委託費	1,080,000		1,360,000	2,440,000		2,440,000
諸 謝 金	2,827,274		1,404,100	4,231,374		4,231,374
外 注 費	1,625,250		539,000	2,164,250		2,164,250
印刷製本費	316,952		577,134	894,086	22,386	916,472
会 議 費	49,632		16,400	66,032	7,542	73,574
旅費交通費	3,372,640		2,629,415	6,002,055	25,251	6,027,306
車 両 費	17,048			17,048		17,048
通信運搬費	488,475	8,738	998,542	1,495,755	118,276	1,614,031
消耗品 費	805,596	2,672	277,995	1,086,263	46,444	1,132,707
修 繕 費	1,236,661			1,236,661	363,000	1,599,661
水道光熱費	126,536		80,636	207,172	37,764	244,936
地代家賃			35,767	35,767		35,767
賃 借 料	131,400		858,728	990,128	4,290	994,418
減価償却費	297,097		291,806	588,903	37,924	626,827
保 険 料	176,436		37,650	214,086	16,085	230,171
諸 会 費	122,522		111,375	233,897	18,475	252,372
新聞図書費	35,670		209,410	245,080		245,080
租税 公課	787,234	7,165	1,545,601	2,340,000	39,807	2,379,807
支払手数料	87,354		44,275	131,629	2,530	134,159
支払利息			122,582	122,582		122,582
雑費					748	748
その他経費計	13,583,777	183,821	11,140,416	24,908,014	740,522	25,648,536
経常費用 計	18,947,357	533,868	33,198,606	52,679,831	740,522	53,420,353
当期経常増減額	741,787	△ 116,502	344,506	969,791	△ 347,588	622,203

3. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	増加	減少	減価償却累計額	期末帳簿価額
土地	8,400,000				8,400,000
建物	6,565,842			1,597,610	4,968,232
建物附属設備	869,203			641,920	227,283
構築物	1,495,269			336,433	1,158,836
工具器具備品	1,297,285	194,600		1,151,422	340,463
合計	18,627,599	194,600		3,727,385	15,094,814

4. 借入金を増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
短期借入金				
愛媛銀行道後支店	4,000,000	4,000,000	4,000,000	4,000,000
理事		4,000,000	3,000,000	1,000,000
長期借入金				
愛媛銀行道後支店	2,445,000		605,000	1,840,000
愛媛信用金庫本店営業部	900,000		550,000	350,000
合計	7,345,000	8,000,000	8,155,000	7,190,000

【参考】事業別損益(対予算比)

科目	国際協力・教育・ネットワーク事業		販売事業		環境事業	
該当事業名	モザンビーク支援、武器アート、オリパラ、ESD・SDGsツアー、講師派遣研修受入、NGO相談員、協働オフィス、四国ESDセンター、えひめ森林公園、ESDネットワーク事業、JICA多文化共生事業		フェアトレードコーヒー、フェアトレード応援商品等販売		四国EPO、LS四国、地球環境基金助成金説明会	
内訳	2023年度予算	2023年度実績	2023年度予算	2023年度実績	2023年度予算	2023年度実績
I. 経常収益						
1. 受取会費						
正会員会費						
協力会費						
賛助会費						
2. 受取寄付金						
受取寄付金	1,000,000	1,493,644				
ボランティア受入評価益						
3. 受取助成金						
4. 事業収益						
事業収益	527,890	1,510,438	350,000	417,366		
受託事業収益	11,640,514	15,554,477			36,604,000	33,543,112
5. その他収益						
受取利息						
雑収益		1,130,585				
経常収益計	13,168,404	19,689,144	350,000	417,366	36,604,000	33,543,112
II. 経常費用						
(1) 人件費						
給与	3,312,450	5,039,859		350,047	19,402,800	19,578,772
ボランティア評価費用						
法定福利費	983,600	323,721			2,435,489	2,455,666
福利厚生費					20,000	23,752
人件費計	4,296,050	5,363,580		350,047	21,858,289	22,058,190
(2) その他経費						
売上原価			100,000	165,246		
業務委託費	1,188,000	1,080,000			1,440,000	1,360,000
諸謝金	2,404,876	2,827,274			546,000	1,404,100
外注費	1,000,000	1,625,250			822,000	539,000
印刷製本費	130,000	316,952			250,000	577,134
会議費	20,000	49,632			10,000	16,400
旅費交通費	1,932,755	3,372,640			1,036,364	2,629,415
車両費		17,048				
通信運搬費	186,505	488,475	10,000	8,738	711,819	998,542
消耗品費	200,000	805,596	10,000	2,672	60,000	277,995
修繕費		1,236,661			5,000	
水道光熱費	165,000	126,536			90,000	80,636
地代家賃						35,767
賃借料	120,000	131,400			750,000	858,728
減価償却費	180,000	297,097				291,806
保険料	160,000	176,436	5,000		25,000	37,650
諸会費	90,000	122,522			150,000	111,375
新聞図書費	5,000	35,670			170,000	209,410
租税公課	2,000	11,600			21,000	21,000
租税公課(消費税)	617,536	775,634		7,165	3,297,600	1,524,601
研修費						
支払手数料	90,000	87,354	2,000		30,000	44,275
支払利息					170,000	122,582
為替差損						
支払寄付金						
修繕積立金						
南海トラフBCP対策費						
その他経費計	8,491,672	13,583,777	127,000	183,821	9,584,783	11,140,416
経常費用計	12,787,722	18,947,357	127,000	533,868	31,443,072	33,198,606
当期経常増減額	380,682	741,787	223,000	△ 116,502	5,160,928	344,506

科目 該当事業名	事業部門計		管理部門		合計		
	2023年度予算	2023年度実績	2023年度予算	2023年度実績	2023年度予算	2023年度実績	対予算比
I. 経常収益							
1. 受取会費							
正会員会費			350,000	280,000	350,000	280,000	80.0%
協力会費			350,000	66,000	350,000	66,000	18.9%
賛助会費				20,000		20,000	
2. 受取寄付金							
受取寄付金	1,000,000	1,493,644			1,000,000	1,493,644	149.4%
ボランティア受入評価益							
3. 受取助成金							
4. 事業収益							
事業収益	877,890	1,927,804			877,890	1,927,804	219.6%
受託事業収益	48,244,514	49,097,589			48,244,514	49,097,589	101.8%
5. その他収益							
受取利息			5,000	73	5,000	73	1.5%
雑収益		1,130,585		26,861		1,157,446	
経常収益計	50,122,404	53,649,622	705,000	392,934	50,827,404	54,042,556	106.3%
II. 経常費用							
(1) 人件費							
給与	22,715,250	24,968,678	120,000		22,835,250	24,968,678	109.3%
ボランティア評価費用							
法定福利費	3,419,089	2,779,387			3,419,089	2,779,387	81.3%
福利厚生費	20,000	23,752			20,000	23,752	118.8%
人件費計	26,154,339	27,771,817	120,000		26,274,339	27,771,817	105.7%
(2) その他経費							
売上原価	100,000	165,246			100,000	165,246	165.2%
業務委託費	2,628,000	2,440,000			2,628,000	2,440,000	92.8%
諸謝金	2,950,876	4,231,374			2,950,876	4,231,374	143.4%
外注費	1,822,000	2,164,250			1,822,000	2,164,250	118.8%
印刷製本費	380,000	894,086	250,000	22,386	630,000	916,472	145.5%
会議費	30,000	66,032	10,000	7,542	40,000	73,574	183.9%
旅費交通費	2,969,119	6,002,055	30,000	25,251	2,999,119	6,027,306	201.0%
車両費		17,048				17,048	
通信運搬費	908,324	1,495,755	120,000	118,276	1,028,324	1,614,031	157.0%
消耗品費	270,000	1,086,263	60,000	47,192	330,000	1,133,455	343.5%
修繕費	5,000	1,236,661	40,000	363,000	45,000	1,599,661	3554.8%
水道光熱費	255,000	207,172	40,000	37,764	295,000	244,936	83.0%
地代家賃		35,767				35,767	
賃借料	870,000	990,128		4,290	870,000	994,418	114.3%
減価償却費	180,000	588,903	80,000	37,924	260,000	626,827	241.1%
保険料	190,000	214,086	10,000	16,085	200,000	230,171	115.1%
諸会費	240,000	233,897	15,000	18,475	255,000	252,372	99.0%
新聞図書費	175,000	245,080			175,000	245,080	140.0%
租税公課	23,000	32,600	38,500	39,807	61,500	72,407	117.7%
租税公課(消費税)	3,915,136	2,307,400			3,915,136	2,307,400	58.9%
研修費							
支払手数料	122,000	131,629	1,500	2,530	123,500	134,159	108.6%
支払利息	170,000	122,582			170,000	122,582	72.1%
為替差損							
支払寄付金							
修繕積立金							
南海トラフBCP対策費							
その他経費計	18,203,455	24,908,014	695,000	740,522	18,898,455	25,648,536	135.7%
経常費用計	44,357,794	52,679,831	815,000	740,522	45,172,794	53,420,353	118.3%
当期経常増減額	5,764,610	969,791	△ 110,000	△ 347,588	5,654,610	622,203	11.0%

3. 監査報告

2024年5月14日、16日、23日で実施した。

監査報告書

特定非営利活動法人
四国グローバルネットワーク

代表理事 竹内 よし子 様

2024年5月29日

特定非営利活動法人
四国グローバルネットワーク

監事 鈴木 靖彦



特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク定款第7章第49条に基づき、2023年度事業報告書、活動計算書、貸借対照表および財産目録など決算に関する書類を監査し、記帳簿の計算が正確であって記載に誤りがなく、適正に処理していることを証明します。

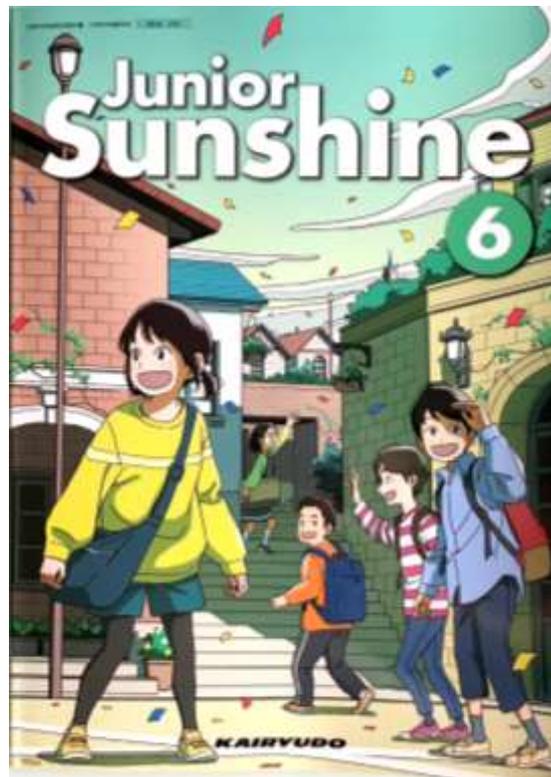
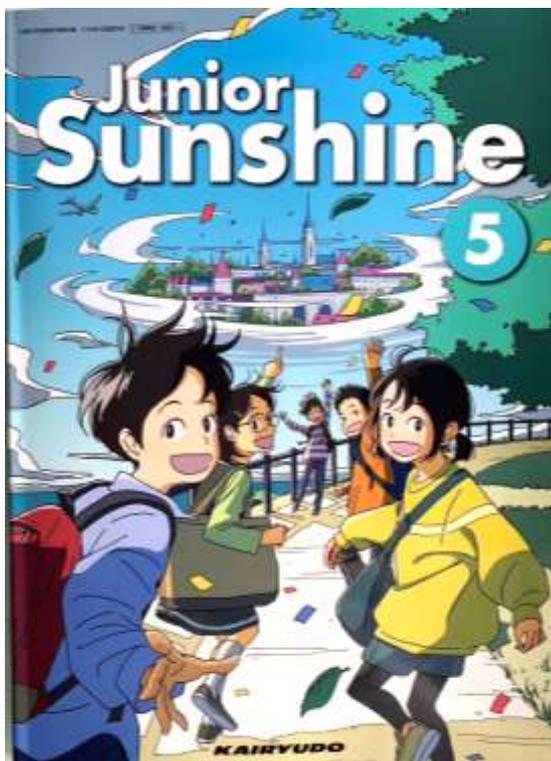
以上

4. 広報活動

会員メルマガ、HP、Facebook、インスタグラムを活用し、イベント等の情報発信を行った。メディアの取材に応じ、新聞・テレビ・ラジオ等において EGN の諸活動、他の市民活動の広報を積極的に行い、NPO/NGO 活動への理解や参加促進を図った。以下は、メディア等への掲載一覧である。

	発行日	メディア媒体	内 容
1	2023 年 春号	サポセンだより	表紙写真 Bridge of friendship の活動の様子 03 報告 令和 4 年度松山市市民活動推進補助金採択団体活動報告
2	4 月 5 日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「宇宙と SDGs」（四国 ESD センター）
3	4 月 5 日	中小企業家しんぶん	SDGs で経営指針を浸透させるポイントを学ぶ 中同協四国ブ ック SDGs 実践報告会&環境経営拡大委員会(四国 EPO)
4	5 月 3 日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「平和（ウクライナ支援）と探求学習」（四国 ESD セン ター）
5	6 月	DEAR News	各地から 愛媛 「Bridge of friendship」 の活動
6	6 月 7 日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「家庭での環境への取組」（四国 ESD センター）
7	6 月 20 日	毎日新聞	Web 版 「モザンビークと愛媛」 つないだ NPO、教科書に 大統領も来県
8	6 月 21 日	西日本放送ラジオ	RNC ラジオ「CHIT CHAT」ESD センター、ESD バーチャル大学の案 内 （四国 ESD センター）
9	6 月 23 日	毎日新聞	四国/愛媛 友情で復興支え続け 松山の NPO 活動が教科書に
10	7 月 5 日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「ユネスコの取組みと SDGs」（四国 ESD センター）
11	8 月 2 日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「平和、人道支援」（四国 ESD センター）
12	9 月 1 日	(公財)渋沢栄一記念財団	青淵第八九四号九月号「モザンビークの武器アートと ESD」執筆
13	9 月 1 日	リビングたかまつ	防災イベント Pick Up 南海トラス香川液化化対策コンソーシア ム連携開催 対策いろいろ防災 ESD（四国 ESD センター）
14	9 月 18 日	四国新聞	適切な避難行動 CG を使い学ぶ 香川大で防災イベント（四国 ESD セ ンター）
15	9 月 6 日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「フェアトレード」（四国 ESD センター）
16	9 月 25 日	毎日新聞	四国/愛媛版 25 面 異文化に触れ学んだ SDGs・松山の中高生モ ザンビーク短期留学（EGN）
17	10 月 4 日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「海ゴミと地域連携」（四国 ESD センター）
18	10 月 14 日	読売新聞	伊予の風 モザンビーク 自転車の縁
19	11 月 1 日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「海ゴミと人材育成」（四国 ESD センター）
20	12 月 6 日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「エコ検定と子ども向け SDGs 普及啓発」（四国 ESD セン ター）
21	2023 年 1 月 10 日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「SDGs 現況、四国 EPO・センターの紹介」（四国 ESD センター）

	発行日	メディア媒体	内 容
22	1月24日	宇和島ケーブルテレビ	UCAT NEW 考えよう！私たちのSDGs、宇和島市立畑地小学校授業(EGN)
23	1月27日	愛媛新聞	教えて！モザンビーク 松山の児童新聞編集長と交流(EGN)
24	2月	どんぐり王国通信 DONBURIKO	ESD 拠点ツアー受け入れ！
25	2月7日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！テーマ「教育委員会による高校生の探究学習支援」(四国 ESD センター)
26	2月7日	毎日新聞	WEB版 世界の課題解決はモザンビークに学べ 愛媛の高校、現地記者招き授業
27	2月14日	毎日新聞	四国/愛媛版 モザンビークから学ぼう 世界の課題に挑戦を(EGN)
28	3月6日	西日本放送ラジオ	さわやかラジオ～環境エコロジー！ テーマ「食ロス、スマートプラスチック表彰」(四国 ESD センター)
29	3月7日	徳島新聞	ローカル SDGs 表彰 岳人の森(神山) 四国大賞 高山植物保護や活性化貢献(LS 四国・四国 EPO)



掲載された教科書の表紙

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



国連広報センター

<https://www.unic.or.jp/>